

回答選択肢



設問8(総合評価)

この授業は総合的に魅力的な授業でしたか。
学生の立場に立った魅力的な授業ができましたか。

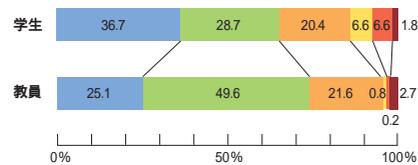


図1 設問8(総合評価)の回答分布

設問7(内容理解)

この授業の内容は理解できましたか。
学生に授業内容を理解させることができましたか。

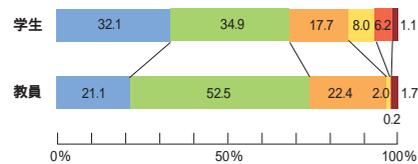


図2 1 設問7(内容理解)の回答分布

設問8(学習態度)

あなたはこの授業に意欲的・積極的に取り組みましたか。
学生はこの授業に意欲的・積極的に取り組んでいましたか。

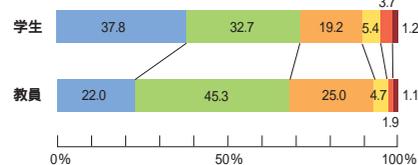


図2 2 設問8(学習態度)の回答分布

「魅力ある授業づくり」への一歩

学生と教員が考える魅力ある授業とは？

本シリーズの最後となる第4回では、学生と教員が考える魅力ある授業とはどのようなものか、2008年度春学期・秋学期の授業評価における総合評価の回答分布を使って考えてみました。

図1は、授業評価の「総合的に魅力的な授業であったか」を問うた設問と総合評価の回答分布を示しています。回答選択肢、その「思う」の回答率において学生の皆さんの評価が教員の自己評価より高い結果となっている点は他の設問項目と比較して特徴的な結果です。また選択肢「どちらかといえばそう思う」を含めて考えた場合、学生約65%、教員約75%と高く2008年度の本学の

この総合評価に対する学生による授業評価と教員の授業自己評価の回答分布の状況の類似性から、学生と教員が考えている魅力ある授業というものをイメージしました。

授業評価の設問に対する学生と教員の回答分布を比較し、設問と総合評価と類似した分布を示していたのが図2-1および図2-2に示す設問7(内容理解)と設問8(学習態度)の回答分布でした。ここでは示していな

い、教員は授業時間を守ったか、「毎回の授業の主題・テーマが明確に示されたか」、教員は熱意ある態度「たか」といった設問では、選択肢「そう思う」の学生の回答は50%以上、教員では70%以上という分布となっており、これらの項目の達成だけでは魅力ある授業ではないと考えられます。これより図1の総合評価の回答分布と類似している図2-1及び図2-2の回答分布の状況から判断し、学生と教員が考える魅力的な授業とは、「よく理解できた、理解させることができた」と感じることができ、授業であり、「学生の皆さんが意欲的・積極的に取り組む」授業ではないかという仮説が立てられます。

まさに「魅力ある授業づくり」には、まず、みなさんの声を発する学生の皆さんと、その声をしっかりと受け止める教員のつながりが必要であるといえるでしょう。

授業評価は、良い授業、悪い授業を比較することが目的ではありません。学生の皆さんは前向きに授業に参加して、フィードバックを発することが大切であり、教員はそのメッセージを受け止めて、いかに自分自身の授業を考察・改善するかが重要です。授業評価は、学生と教員との「コミュニケーション」の場なのです。これからますます、魅力ある授業づくりのために、学生の皆さんから多くの生の声を届けてください。

(大学教育研究センター)